

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスらびっと		
○保護者評価実施期間	2026年2月2日		～ 2026年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 11人
○従業者評価実施期間	2026年2月2日		～ 2026年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士を多く配置しているため、低学年の利用者に手厚い支援を行える。	基本的な生活習慣の取得や宿題の習慣を身に付け、安心して福祉施設を利用できる環境づくりに力を入れている。	療育の固定化がないよう、職員間のコミュニケーション力強化。利用者一人一人の特性、趣向を意識し、楽しく活動に参加できるプログラムにする。
2	「できた」という瞬間を共に分かち合い自己肯定感の向上が見込まれる。	利用者個々の目標をスモールステップにすることで、褒める支援、指導に力を入れている。目標を達成することで、次のステップへの意欲増進に繋げている。	職員全員で「チームで力を合わせる」を意識し、共有することで、質の高いサービス提供に繋げていく。
3	親子での活動や保護者同士の交流の場を設けている。	子どもの成長した姿を実感してもらえるよう、会社で行う夏祭りの他に事業所独自で親子参加型のBBQなどイベントを開催している。	保護者同士の交流の場にもなるので、定期的な開催を視野に入れる。また、職員と保護者との情報共有の場としても活用していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	余暇活動スペースの確保。	建物の構造上、十分なスペースを確保することが困難。	建物内での活動には制限があるため、外での遊びや地域資源を活用して利用者がのびのびと活動できるよう対応していく。
2	玄関先の道路交通量が多い。	飛び出した利用者がいた場合には、事故が懸念される。	玄関口の施錠の徹底、送迎乗降時は職員補助の徹底を行うなどの対応を行う。また、交通量が極めて多い場合には、非常口からの出入りを検討する。
3	職員の専門性の強化。	研修等は実施しているものの、職員個人の専門性理解にばらつきがみられる。	職員一人一人のニーズに応じた研修会の実施を行い、職員間でのコミュニケーション力の強化。ロールプレイなどを多く取り入れ、チームで事例検討を行い、都度助言をする。